

キリストには替えられません

この証言は東福岡教会の特別伝道集会で語ったものですが（2007年10月27日）、受難節でもあり、先日祈祷会の前に成澤さんが弾いておられたピアノの「キリストには替えられません」（「新生讃美歌521番）を聞き、心に期する）ものがあり、また、かつての特伝で話を聞いた方が祈祷会に来られて同じ話を聞かれることはないだろうと想定されるので、詩編45編から離れて、ここに再び証言したいと思います。

1. 出会い

私は長らくキリスト教会の牧師をしていました。牧師はいろいろな人と出会う仕事です。ある時、急性白血球再生不良で入院していた15歳のお嬢さんに出会いました。骨髄移植のためにA型の血液を求めていました。最初の私の反応は冷たいものでした。KNという女性が礼拝後の報告の時間に立って、かつての教会で出会った少女がA型の血液型で、もし型が合えば、骨髄移植を求めているとのことでした。私はA型でしたが、私の反応は「え?! かつての教会の知り合い。よしてよ! 私の管轄外!」というものでした。しかし、KNさんが次の週も、その次の週も同じことをアピールされたので、MOさんが入院していた千葉県松戸市の松戸市民病院に行き、成分献血というのをしました。まあ、せっかく血液を差し上げるんだからと思い、ひと目会っておこうと考えました。細菌やウイルスに感染するといけないので、白いガウンと白い帽子をかぶり、手指を消毒しておずおずと無菌室に入院していた彼女と彼女を介護していた母親にも出会いました。すでに右目が少し腫れていました。体が異常に疲れるというので病院に行くと、白血球がかなり少なく、目に感染症を患っていたので、即入院であったそうです。ひとことお祈りをし、「おいとま」をしようとする、お母さんが、今度来られるときは十字架のペンダントを持ってきてくださいと言うのです。

2. 十字架のペンダントとその行く末

私は再び病院を訪問するつもりはなかったので躊躇しましたが、頼まれましたので、喜んで十字架のペンダントを買って、再び彼女を訪問しました。十字架であれば抽象的なもの（シンプルでプロテスタントのもの）ではなく、主イエス様の姿が十字架についているローマ・カトリックのものが良いと勝手に考えて東京四谷の上智大学のキャンパスに向かいました。四谷の駅に降りる前に「神様、ホームで、尼僧に合わせて下さい」と祈りました。まあ、上智大学がすぐ近くですから会える蓋然性が大きかったわけですが。するとホームにおりると向こうから多分イエズス会の尼僧でしょうか、こちらに歩いてきました。この方が主が備え給うお方かと思ひ声をかけ、十字架のペンダントをどこで買えるかを尋ねると、場所を教えてくださいました。その十字架のペンダントを持ってMOさんを再訪すると彼女は喜んでそれを首にかけ、ずっと十字架に触っていました。彼女が小学生の頃、教会学校（日曜学校）に通っていて、それ以来イエス様が大好きになったそうです。目はさらに腫れていました。余り長居はできないので、祈り、讃美歌を一曲歌ってあげて帰ってきました。その時、歌ったものが「キリストには替えられません」でした。3回目に訪問した時は、ショックでした。私がプレゼントした十字架のペンダントの代わりに彼女は木でできた十字架を握っているではありませんか! 「どう

して」と言う、「娘は一日中首にかけた十字架を触っていて、その姿勢が苦しそうだったので、握ることのできる木の十字架に代えたそうです。むろん、私は納得しました。

3. キリストには替えられません

さて、病室の壁を見ると私が歌ってあげた「キリストには替えられません」の歌詞が模造紙に書かれ、貼ってありました。たぶん KN さんが教えてあげたのでしょう。毎日何回もこの讃美歌を NO さんはお母さんと一緒に歌っていたそうです。その時、私はもっと彼女にふさわしい讃美歌を歌ってあげればよかったと後悔しました。「キリストには替えられません」(新生 521) ですが、これは「キリストには替えられません。世の宝もまた富も、このお方がわたしに代わって死んだゆえです。世の楽しみよ、去れ、世の誉れよ行け。キリストには替えられません。世の何物も」というのです。中学 3 年生の 15 歳の娘さんには「世の宝」や「富」の誘惑など無縁ではないでしょうか？ 世の楽しみ、世の誉れはまさに彼女がこれから経験することではないでしょうか？ 第二節はキリストには替えられません。有名な人になることも。人の褒める言葉もこの心をひきません」というのです。彼女はこれから才能を発揮し、恋をし、傷つき、人を愛し、人生の喜びと苦しみを経験するはずでした。しかし、彼女にとって、十字架に至るまで私たちを愛し、十字架に架かって私たちの罪を贖い、そのいのちを分かち合ってくださいましたキリストには替えられません。・・・このお方がわたしに代わって死んだゆえです、で十分だったのかも知れません。お母さんは、「自分が代わって病気になれたらどんなに良いでしょう。でも、自分の娘に代わってあげることはできないのよね！ただ傍らにいて見ているだけ！」と言われました。

4. バプテスマ式

彼女は 15 歳の若さで天に召されてしまうのです。専修大学付属松戸高校に推薦入学も決まっていたのですが、結局、一度も通うことは叶いませんでした。こんな訪問が何回か続いて、彼女は信仰告白をして洗礼(バプテスマ)を受けてクリスチャンとなりました。我が愛する栗ヶ沢教会の役員・執事を証人として、多分 2 名連れて「滴礼」でバプテスマを授けました。医者は医学の最善を尽くします。しかし、彼女に代わって病気を負うことはできません。両親は心を尽くして看病しました。しかし、そうは思っても娘に代わって死んで上げることはできません。牧師や教会は彼女のために祈ります。しかし、彼女に代わって死んであげることはできないのです。イエス様だけが命を分かち合うことができるのです。この出来事、治癒(cure)はできないけれども「癒し」「お世話」(healing, care)はでき、危機に直面し、個人と個人の間には親子と言えども深い断絶があり、それでも「信仰」は人を支えることができるという経験は、教会にとっても素晴らしい経験になったと思います。

5. その後のこと

医者や看護師さんたちは、「こんなに喜びに満ち、人々に感謝して生きている病人は初めて」と褒めてくれました。ご両親もこんなに気丈な娘に驚いたと言っていました。しかし、彼女は天に召されていきました。最後の日、たぶん抗がん剤の副作用でしょうか。いわゆる「ムーンフェイス」で顔はパンパンに腫れ上がり、彼女の両目からは膿がどろどろ流れる有様でした。彼女は「お母さん、最後に鏡を貸して」とせがみました。死ぬ前に自分の顔の様子を見たかったのでしょうか。お母さんは「ダメ」と言い

ました。私も一瞬たじろぎましたが、もし彼女が自分の顔を鏡で見ても、感謝と喜びをもって死んでいったことであろうと確信していました。彼女は敗北したのでしょうか？ この世の人はそう判断するかも知れません。死をこえたいのちをあざ笑うかも知れません。しかし、私は、彼女のいのちはイエス様に守られ、イエス様に救われ、かの日に造りかえられ、新しいいのちによみがえると信じます。人は、そのような者たちとして、いのちを分かち合い、死と孤独と絶望に勝利された主イエスを信じて生きるように招かれているのです。十字架のイエスは復活されたキリストであり、復活されたキリストは十字架で絶望されるほど人と寄り添われたイエス様なのです。

6. 私の娘、そして孫たち、教会員の皆様

当時私の娘は13歳前後であったと記憶しています。今週土曜日は、目に入れても痛くないような孫の友基も14歳になります。そんな状況ですから、このMOさんのことが偲ばれるのかもしれませんが。また、コロナウイルス感染の不安で、一人でおられる方がおられることが毎日気になっているからかも知れません。今夜のために3時間以上かけて詩編45編のからのメッセージをも準備しましたが、このタイミングでMOさんの物語を証言することにしたのです。

少しくプライベートなことをお話したことをお赦し下さい。以上。